

事務事業名	市民会館整備費										担当課	部課名	生涯学習部文化芸術課			
												新部課名				
予算科目コード	会計	01	款	02	項	01	目	14	細目	002	説明	01	課等の長	井澤 邦章	電話	6743

1. 事業概要

事業開始年度	昭和 43 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	市民会館の再整備に向け取組を進める。また、市民会館利用者の安全確保と施設の機能維持を図る。						
事業目的及び必要性	開館して50年以上が経過し、老朽化した市民会館について、その再整備に向けた取組を進めるとともに、現施設における利用者の安全確保や機能維持のため修繕等を行う。市民に文化活動の場を提供するために必要である。						
対象	1. 個人	市民				435,121 人	
根拠法令等							
事業実施手法 (該当するもの全てにチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施						
	<input type="checkbox"/> 委託・指定管理 (委託先 :)						
	(委託等内容 :)						
	<input type="checkbox"/> 補助金・負担金 (:)						
<input type="checkbox"/> その他 (:)							
藤沢市市政運営の総合指針2020				その他の計画との関連			
重点施策名		指針体系コード					
都市基盤の充実と長寿化対策の推進		5-1-171		藤沢市公共施設再整備基本方針 第2次藤沢市公共施設再整備プラン 藤沢市公共施設等総合管理計画 藤沢市公共建築物長寿命化(予防保全)指針			
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
公共施設を次世代のために、より良い状態で引き継いでいると感じますか		2.74 点	2.83 点	2.8 点	2.83 点		
		点	点	点	点		

令和2年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額 (千円)	主な事業内容
	0		
	千円		
【参考】 令和3年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額 (千円)	主な事業内容
	報酬	1,112 千円	市民会館等再整備基本構想策定検討委員会委員報酬
	委託料	20,350 千円	市民会館等再整備基本構想策定支援業務委託
21,462			
千円			

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
常時勤務職員※	0.20	0.30	1.20	1.00人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00	0.00	0.00	0.00人工
非常勤職員	0.00	0.00	0.00	
合計	0.20人工	0.30人工	1.20人工	1.00人工
会計年度任用職員(配置数)				0.00人

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

3. 事業実施内容・成果

令和2年度 事業実施 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで市民等から市民会館等再整備に関する意見の募集を実施 ・関係団体から意見を聴取 						
	成果目標	指標名	単位	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値
	施設稼働率(大・小ホール, 第1・2展示 集会ホールの平均)	%	90.00	90.00	90.00	90.00	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	備考
	工事等実施件数	件	3	5	1	0	小破修繕等は, 市民会館施設管理費で実施
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	施設稼働率(大・小ホール, 第1・2展示 集会ホールの平均)	%	86.55	87.03	82.53	41.90	令和2年度は, 新型コロナウィルス感染症の影響により稼働率が低下
	数値で表せない効果						

4. コスト分析

年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
コスト	行政費用(フルコスト) A	0	0	19,746	7,792			
	(1)現金を伴う支出 (千円)	0	0	16,121	8,400			
	事業費(支出済額)			4,459	0			
	償還金利息			0	0			
	人件費合計(①+②+③)	0	0	11,662	8,400			
	①常時勤務職員等の給与等			10,969	7,859			
	②会計年度任用職員の報酬等			0	0			
	③退職金相当額			693	541			
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	0	0	3,625	-608			
	①減価償却費			0	0			
	②退職給与引当金繰入額			3,625	-608			
	③不納欠損額			0	0			
	④その他()			0	0			
	行政収益(事業収入) B	0	0	0	0			
(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	0	0				
①分担金及び負担金 c	0	0	0	0				
②使用料及び手数料 d	0	0	0	0				
③国庫支出金	0	0	0	0				
④県支出金	0	0	0	0				
⑤その他()	0	0	0	0				
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0				
収入未済増減額	0	0	0	0				
収支差額(純費用)A-B E	0	0	19,746	7,792				
分析指標	項目	施設稼働率(大・小ホール, 第1・2 展示集会ホールの平均) F	86.55	87.03	82.53	41.90		
			単位 %	単位 %	単位 %	単位 %		
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	0.00	0.00	239,258.45	185,966.59			
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	0.00	427,501	0.00	429,317	45.60	433,060	17.91
受益者負担率 (C+D)/A (%)	-	-	0.00	0.00				

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は, 支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は, 非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し, 事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和元年度末時点の課題	市民ワークショップ、サウンディング調査により聴取した意見を踏まえ、市民会館等再整備基本構想を策定するとともに、市民等の意見を継続的に把握していく必要がある。
(2) (1)解決のための令和2年度の取組	新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた市民会館等再整備基本構想の策定は先送りとしたが、ホームページにて市民等から意見の募集を行うとともに、関係団体からの意見聴取を行った。
(3) 令和2年度末時点の課題	基本構想の策定に向けて多くの意見を聞きながら事業に取組む必要がある。
(4) (3)解決のための今後の取組	有識者、市民、関係団体を構成員とする市民会館等再整備基本構想策定検討委員会を設置し、基本構想の策定に向けた議論を行う。併せて、市民ワークショップ等を開催し、様々な意見を把握していく。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	<input type="radio"/> ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	<input type="radio"/> ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	<input type="radio"/> ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの <input type="radio"/> ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和2年度支出済額	<input type="radio"/> ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 <input type="radio"/> オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	<input type="radio"/> ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 <input type="radio"/> オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	<input type="radio"/> ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 <input type="radio"/> オ=80%以上

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
4. 施設等整備	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	文化芸術の振興を図るため鑑賞、参加、創造等ができる環境づくりが求められている。また、市民会館等の再整備にあたっては、地域における文化振興のための拠点として様々な施設、機能を備えた整備が求められている。	
他市等の事例	平成28年に大和市は、文化創造拠点としてホール、図書館等を複合化した施設「シリウス」を開館した。また、小田原市はホールの他、ギャラリーや交流機能を備えた施設を、平塚市はホールや公園、民間施設を街区において一体的に整備を進めている。	
市民ニーズ	把握方法	市民ワークショップや関係団体へのヒアリング、基本構想策定時にパブリックコメント等を実施する。
	把握内容	ホールの規模、複合化機能等の基本構想の策定に必要な内容。
	対応等	基本構想等を検討する際に、市民意見として参考とする。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	新型コロナウイルス感染症の影響により基本構想の策定を見送ることとしたが、市民等の意見を把握する機会を設け、一定の意見を把握することができた。	
今後の方針	まちづくりテーマ	⑤ 都市の機能と活力を高める
	事業の方向性	現状維持
	基本構想の策定に向けて、市民会館等再整備基本構想策定検討委員会を設置し、これまでに把握した意見等を参考としながら、その取組を進める。	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク影響度Ⅰ	リスク影響度Ⅱ
3	市民会館の管理・運営に関すること	有	有		1

※リスク影響度Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満、レベル2は10%以上30%未満、レベル3は30%以上。

※リスク影響度Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響、レベル2は部内への影響、レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	生涯学習部	氏名	神原 勇人	確認日	2021/8/10
----	-------	----	-------	-----	-----------

事務事業名	文化行事費										担当課	部課名	生涯学習部文化芸術課			
												新部課名				
予算科目コード	会計	01	款	11	項	06	目	04	細目	001	説明	03	課等の長	井澤 邦章	電話	6743

1. 事業概要

事業開始年度	平成 元 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	魅力ある文化芸術の創造のため、文化芸術の鑑賞機会の充実を図るとともに、将来の藤沢の文化芸術を担う人材を育成するための事業を実施する。						
事業目的及び必要性	子どもや若者たちに、文化芸術の鑑賞や体験の機会を提供することにより興味・関心を持ってもらうことで、文化の後世への伝承や市民の文化芸術活動の活性化につなげるとともに、藤沢の文化芸術を担う人材の育成を図る。市民の活発な文化活動や若い世代の活躍により、新たな文化芸術の創造発信及び個性豊かで魅力ある地域文化の形成を目指す。						
対象	1. 個人	市民				435,121 人	
根拠法令等	法律等	文化芸術基本法, 藤沢市文化芸術振興計画, 藤沢市オリンピック・パラリンピック文化プログラム					
事業実施手法 (該当するもの全てにチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施						
	<input type="checkbox"/> 委託・指定管理 (委託先 :) (委託等内容 :)						
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金 (補助金 : 藤沢市文化団体連合会)						
	<input type="checkbox"/> その他 ()						
藤沢市市政運営の総合指針2020				その他の計画との関連			
重点施策名		指針体系コード					
オリンピック・パラリンピックを契機とした都市の魅力(レガシー)の創出		2-2-61		藤沢市文化芸術振興計画 藤沢市オリンピック・パラリンピック文化プログラム			
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
市内に文化的な魅力があると感じますか		2.78 点	2.74 点	2.77 点	2.88 点		
		点	点	点	点		

令和2年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額 (千円)	主な事業内容
	報酬	38 千円	藤沢市文化芸術振興計画評価委員会委員報酬
	負担金補助及び交付金	835 千円	藤沢市郷土芸術文化推進事業補助金
873 千円			
【参考】 令和3年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額 (千円)	主な事業内容
	報酬	113 千円	藤沢市文化芸術振興計画評価委員会委員報酬
	負担金補助及び交付金	3,800 千円	藤沢市郷土芸術文化推進事業補助金 等
3,913 千円			

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
常時勤務職員※	0.30	0.50	0.30	0.30人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00	0.00	0.00	0.00人工
非常勤職員	0.00	0.00	0.00	
合計	0.30人工	0.50人工	0.30人工	0.30人工
※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く				
会計年度任用職員(配置数)				0.00人

3. 事業実施内容・成果

令和2年度 事業実施 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢市文化芸術振興計画評価委員会の開催 ・文化団体の活動支援 藤沢市謡曲協会 一般対象謡曲体験活動 藤沢雅楽協会 中学生のための雅楽ワークショップ, 学校配布用DVD作成等 藤沢三曲協会 お琴体験教室 藤沢華道協会 市役所展示活け花 藤沢市書道協会 学校書道教育支援活動						
	指標名	単位	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	備考
成果目標	「こころの劇場」招待事業入場者数	人	3,900	3,900	3,900	3,900	
	みらいをひらくワクワク体験ひろば参加者数	人	1,500	1,500	1,500	1,500	
参考							
活動実績	指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	備考
	「こころの劇場」招待事業公演数	公演	4	4	4	0	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により未開催
みらいをひらくワクワク体験ひろば実施日数	日	2	1.5	1	0		
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	「こころの劇場」招待事業入場者数	人	3,617	3,865	3,688	0	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により未開催
みらいをひらくワクワク体験ひろば参加者数	人	1,720	1,451	291	0		
数値で表せない効果							

4. コスト分析

年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
コスト	行政費用(フルコスト) A	8,622	13,802	9,348	3,392
	(1)現金を伴う支出 (千円)	8,697	13,232	9,948	3,393
	事業費(支出済額)	5,797	8,413	7,033	873
	償還金利子	0	0	0	0
	人件費合計(①+②+③)	2,900	4,819	2,915	2,520
	①常時勤務職員等の給与等	2,766	4,584	2,742	2,358
	②会計年度任用職員の報酬等	0	0	0	0
	③退職金相当額	134	235	173	162
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-75	570	-600	-1
	①減価償却費	0	0	0	0
	②退職給与引当金繰入額	-75	570	-600	-1
	③不納欠損額	0	0	0	0
	④その他()	0	0	0	0
	行政収益(事業収入) B	1,242	0	0	0
(3)現金を伴う収入 (千円)	1,242	0	0	0	
①分担金及び負担金 c	0	0	0	0	
②使用料及び手数料 d	0	0	0	0	
③国庫支出金	0	0	0	0	
④県支出金	0	0	0	0	
⑤その他(文化振興基金繰入金)	1,242	0	0	0	
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0	
収入未済増減額	0	0	0	0	
収支差額(純費用)A-B E	7,380	13,802	9,348	3,392	
分析指標	項目	3,617	3,865	3,688	0
	こころの劇場招待事業入場者数 F	単位 人	単位 人	単位 人	単位 人
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	2,383.74	3,571.02	2,534.71	-
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	17.26 427,501	32.15 429,317	21.59 433,060	7.80 435,121
受益者負担率 (C+D)/A (%)	0.00	0.00	0.00	0.00	

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和元年度末時点の課題	「こころの劇場」は児童の芸術鑑賞の機会を提供する貴重な場となっており、今後も引き続き事業を実施していく必要がある。 また、「みらいをひらくワクワク体験ひろば」についても、伝統芸能を若い世代に伝えていくために重要な機会となっているため、オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、様々な機会を捉えて鑑賞や体験を通じて文化芸術を発信していく必要がある。
(2) (1)解決のための令和2年度の取組	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの文化事業が中止となったが、オンライン配信やDVDを使用する等の工夫を行い事業を実施した文化団体に対し補助金を支出し、文化芸術の振興を図った。
(3) 令和2年度末時点の課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を予定していた事業の多くを開催することができなかった。事業実施団体と連携しながら、オンライン配信等、事業の内容に応じた様々な方法による文化芸術への取組が求められる。
(4) (3)解決のための今後の取組	補助金を支出している令和2年度に実施した事業の一部において、オンライン配信やDVDを作成し、それらを使用した講座を開催した。これらの効果等を踏まえ、事業実施団体と連携しながら、文化芸術振興への取組を検討していく。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠		
	○	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)		
	○	ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間		
	○	ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和2年度支出済額	
		○	ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	
		○	ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合			
○		ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上	

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
5. 補助金・負担金	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	コロナ禍にあつて人生や人間性を豊かにする文化芸術の重要性が増しており、国等においても文化団体等の活動支援を行っている。	
他市等の事例	文化団体への支援として、多くの自治体において、事業費の一部補助や事業の委託を実施している。また本市同様、市展を開催するなど、文化芸術の発表機会の提供を行っている。	
市民ニーズ	把握方法	藤沢市文化芸術振興計画評価委員会にて意見を聴取した。
	把握内容	コロナ禍においても、オンライン配信等は有効な方法であるが、生で見る・聴くことの感動には敵わないことから、できる限り生で見る・聴く機会をつくることも重要である。
	対応等	新しい生活様式における文化芸術の振興について、様々な事例等を検討していく。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の多くが実施することができない状況でありながらも複数の文化団体においてオンライン配信等が行われたことで文化芸術の振興を図ることができた。	
今後の方針	まちづくりテーマ	② 『2020年』に向けてまちの魅力を創出する
	事業の方向性	現状維持
	コロナ禍にあつて文化芸術の重要性が増しており、引き続き文化団体等の活動を支援するとともに、事業等の内容や状況に応じて様々な方法によって文化芸術の振興に努めていく。	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク影響度Ⅰ	リスク影響度Ⅱ
10	文化振興事業に係る企画及び実施の補助執行	無	有	1	1

※リスク影響度Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満、レベル2は10%以上30%未満、レベル3は30%以上。

※リスク影響度Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響、レベル2は部内への影響、レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	生涯学習部	氏名	神原 勇人	確認日	2021/8/10
----	-------	----	-------	-----	-----------

事務事業名	アールスペース運営管理費								担当課	部課名	生涯学習部文化芸術課					
										新部課名						
予算科目コード	会計	01	款	11	項	06	目	04	細目	001	説明	04	課等の長	井澤 邦章	電話	6411

1. 事業概要

事業開始年度	平成 27 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	ココテラス湘南6階をアールスペース(FAS)として運営し、若手芸術家等の創作活動や展示・発表の支援を行うとともに、市民等に身近な場所で美術の魅力に触れる機会や学ぶ場を提供することにより、美術の振興を図る。						
事業目的及び必要性	本施設は、本市の文化芸術の創造、発信の拠点として、若手芸術家等の活動を支援するとともに、市民等に身近な美術鑑賞の場を提供することにより、市民文化の向上に寄与することを目的として設置されている。						
対象	1. 個人	市民				435,121 人	
根拠法令等	条例(市)	藤沢市アールスペース条例					
事業実施手法 (該当するもの全てにチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施						
	<input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 (委託先 : 有限会社 工匠, 株式会社ビーンビズ 等)						
	(委託内容 : 展示ルーム等清掃委託, ホームページ保守管理業務 等)						
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金 (負担金 : 一般財団法人藤沢市開発経営公社)						
<input type="checkbox"/> その他 ()							
藤沢市市政運営の総合指針2020				その他の計画との関連			
重点施策名		指針体系コード					
オリンピック・パラリンピックを契機とした都市の魅力(レガシー)の創出		2-2-71		藤沢市文化芸術振興計画 藤沢市オリンピック・パラリンピック文化プログラム			
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
市内に文化的な魅力があると感じますか		2.78 点	2.74 点	2.77 点	2.88 点		
		点	点	点	点		

令和2年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額 (千円)	主な事業内容
	需用費	9,970 千円	企画展・公募展等事業費
	役務費	7,637 千円	美術品等運搬料, 展示手数料
	55,913 千円	26,927 千円	使用料及び賃借料 ココテラス6階施設賃借料, 印刷機賃借 等
	7,017 千円	負担金補助及び交付金 光熱水費等負担金	
	4,362 千円	その他 アールスペース運営協議会委員報酬, 作品制作謝礼 等	
【参考】 令和3年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額 (千円)	主な事業内容
	役務費	4,126 千円	美術品等運搬料, 展示手数料
	委託料	4,578 千円	デザイン制作委託料
	46,794 千円	26,797 千円	使用料及び賃借料 ココテラス6階施設賃借料, 印刷機賃借 等
	7,148 千円	負担金補助及び交付金 光熱水費等負担金	
	4,145 千円	その他 アールスペース運営協議会委員報酬, 作品制作謝礼 等	

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
常時勤務職員※	2.00	2.00	2.00	2.00 人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00	0.00	0.00	0.00 人工
非常勤職員	3.20	3.20	3.00	
合計	5.20 人工	5.20 人工	5.00 人工	2.00 人工
※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く				
会計年度任用職員(配置数)				6.50 人

3. 事業実施内容・成果

令和2年度 事業実施 内容	若手芸術家の支援や、身近な場所で美術に触れることができる企画展及び関連イベントの開催、その他アートの運営管理業務の実施 ・「修復作品公開 長谷川路可よみがえる若き日の姿」等、4つの企画展を開催 開催日数143日、来館者数6,851人 ・企画展関連イベントの開催 開催回数 18回(うち無観客開催9回)、参加者数 55人 ・その他主催事業(長谷川路可作品公開科学調査) 開催日数 8日、参加者数 61人 ・イベント・ワークショップの動画配信 13本 ・「あるいて。みつけて。ふじさわパブリックアート散歩」冊子発行 1万冊(無料配布)						
	指標名	単位	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	備考
成果目標	若手芸術家支援数(企画展)	人	17	17	17	10	
	若手芸術家支援数(ワークショップ等)	人	12	12	12	12	
参考							
活動実績	指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	備考
	若手芸術家支援, 美術振興のための事業実施状況	事業	6	6	6	5	
	他施設との交流事業実施状況	事業	1	2	3	2	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	若手芸術家支援数(企画展)	人	8	12	13	9	
	若手芸術家支援数(ワークショップ等)	人	13	13	11	2	
	数値で表せない効果 展覧会, ワークショップなどの事業実施を通して, 美術への興味関心を高め, 地域の文化振興に寄与している。						

4. コスト分析

年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
コスト	行政費用(フルコスト) A	82,427	70,968	87,651	91,197	
	(1)現金を伴う支出 (千円)	82,930	77,208	84,630	87,907	
	事業費(支出済額)	54,784	56,690	60,059	55,913	
	償還金利息	0	0	0	0	
	人件費合計(①+②+③)	28,146	20,518	24,571	31,994	
	①常時勤務職員等の給与等	18,438	11,889	15,059	15,718	
	②会計年度任用職員の報酬等	8,813	8,629	8,934	15,194	
	③退職金相当額	895	0	578	1,082	
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-503	-5,545	3,460	3,290	
	①減価償却費	0	695	439	277	
	②退職給与引当金繰入額	-503	-6,240	3,021	3,013	
	③不納欠損額	0	0	0	0	
	④その他()	0	0	0	0	
	行政収益(事業収入) B	357	240	0	66	
収入	(3)現金を伴う収入 (千円)	357	240	0	66	
	①分担金及び負担金 c	0	0	0	0	
	②使用料及び手数料 d	357	240	0	66	
	③国庫支出金	0	0	0	0	
	④県支出金	0	0	0	0	
	⑤その他()	0	0	0	0	
	(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0	
収入未済増減額	0	0	0	0		
収支差額(純費用)A-B E	82,070	70,728	87,651	91,131		
分析指標	項目	若手芸術家支援数(企画展) F	8	12	13	9
			単位 人	単位 人	単位 人	単位 人
	1単位あたりの総費用 A/F (円)		10,303,375.00	5,914,000.00	6,742,384.62	10,133,000.00
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)		191.98 427,501	164.75 429,317	202.40 433,060	209.44 435,121
受益者負担率 (C+D)/A (%)		0.00	0.00	0.00	0.00	

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和元年度末時点の課題	さらなる集客を図るため、従来の紙媒体等による広報のほか、動画を活用した広報活動を検討する。 また、市民に対し様々なジャンルの美術鑑賞の機会を提供するため、若手芸術家等の作品だけでなく、収蔵作品や本市ゆかりの物故作家の展覧会を施設の設置目的を踏まえた中で、バランスよく展開していく必要がある。
(2) (1)解決のための令和2年度の取組	動画配信とSNS等を活用した広報活動を積極的に実施した。 また、収蔵作品や本市ゆかりの物故作家と若手芸術家等の展覧会をバランスよく開催するため、開催時期を工夫するなど、年間を通して魅力ある展覧会を開催した。
(3) 令和2年度末時点の課題	新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で、来場できない方に向けた作品鑑賞機会の提供方法を検討する必要がある。 文化活動が制限される中、アーティストが作品発表や制作活動を行う場を確保する必要がある。 所蔵作品の調査研究及び活用検討。
(4) (3)解決のための今後の取組	動画、SNS等を活用し、積極的な情報の発信、作品鑑賞機会の提供に努める。 これまでにFASで展覧会等を行ったアーティストに依頼し、滞在制作やワークショップ等のイベントを行う。 所蔵作品の調査を行い作品の来歴、状態や内容をまとめて今後どのように活用できるか検討する。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	
		ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外)
	○	イ=市の条例等で規定されている事業
		ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの
		エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの
		オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	
		ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの
	○	イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの
		ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの
	エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの	
	オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
(2) 財政的な特徴	③ 事業期間	
		ア=恒久的に実施するもの
	○	イ=年限の定めのないもの
		ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの
		エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの
		オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの
	④ 事業費…令和2年度支出済額	
		ア=300,000千円以上
	○	イ=100,000千円以上～300,000千円未満
		ウ=30,000千円以上～100,000千円未満
	エ=5,000千円以上～30,000千円未満	
	オ=5,000千円未満	
⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合		
○	ア=80%以上	
	イ=50～80%未満	
	ウ=30～50%未満	
	エ=10～30%未満	
	オ=10%未満	
⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合		
	ア=10%未満	
○	イ=10～30%未満	
	ウ=30～50%未満	
	エ=50～80%未満	
	オ=80%以上	

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
3. 施設等維持管理	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	新型コロナウイルス感染症が収束に至らず、都内の美術施設などが何度も臨時休館しているなか、展覧会の鑑賞方法やワークショップ、講座などの事業の実施をどのように展開していくのが良いのか、様々な課題が見られる。	
	文化振興を行う公益財団法人などを中心に、オンラインプログラムが誕生している。その中でも「THEATER for ALL」は、様々な表現ジャンルのアーティストが、イベントやワークショップなどを企画、動画を配信するプログラムである。無料配信もあるが、課金をして視聴するものもあり、そのお金がアーティストの支援に繋がっている。また国際交流基金がオンラインのみで開催する展覧会の配信をスタートさせた。多言語での説明があり、世界中の人が日本の若手アーティストの作品を視聴できる仕組みとなっている。	
市民ニーズ	把握方法	企画展Ⅲcore of bells WEEKEND及び企画展ⅣArtists in FAS2020においてWEBアンケートを実施した。
	把握内容	子どもでも楽しめるイベントや展覧会を企画しているとの評価や、展覧会内容やスタッフの対応についても概ね良いご意見をいただいている。 また、今後の展覧会内容への要望としては、知名度の高い低いに関わらず若手アーティストの驚きのあるような作品が見たいというご意見をいただいている。
	対応等	若手アーティストへの支援となる事業の実施に加え、アウトリーチ事業を積極的に行い、FASへ来場するきっかけづくりを多く作っていく。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	新型コロナウイルス感染拡大防止の影響から、例年どおりの事業実施ができなかったことから、動画配信により鑑賞機会の提供を図った。実施した展覧会についても、内容の見直し等が発生したが、関係者及び来場者から理解をいただき、無事に開催できた。	
	まちづくりテーマ	② 『2020年』に向けてまちの魅力を創出する
今後の方針	事業の方向性	現状維持
	FASの運営理念に沿った事業を、新しい生活様式のなかでどのように発信できるのか、他機関の事例やアートスペース運営協議会委員の助言をもとに、様々な実施方法の可能性について検討する必要がある。動画配信については、アーティストに主体的に映像を制作していただくことや、公開した動画をその場限りで終わらせるのではなく、実績の振り返り等のイベントに活かせる形を検討する。	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク影響度Ⅰ	リスク影響度Ⅱ
20	アートスペースの管理・運営に関すること	無	有	1	
21	藤沢市アートスペース運営協議会に関すること	無	無		1

※リスク影響度Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満、レベル2は10%以上30%未満、レベル3は30%以上。

※リスク影響度Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響、レベル2は部内への影響、レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	生涯学習部	氏名	神原 勇人	確認日	2021/8/10
----	-------	----	-------	-----	-----------

事務事業名	(公財)藤沢市みらい創造財団芸術文化事業関係費										担当課	部課名	生涯学習部文化芸術課			
												新部課名				
予算科目コード	会計	01	款	11	項	06	目	04	細目	002	説明	01	課等の長	井澤 邦章	電話	6743

1. 事業概要

事業開始年度	平成 4 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	芸術文化創造の活性化及び市民文化活動の支援・育成を図るため、公益財団法人藤沢市みらい創造財団に対し助成等を行う。						
事業目的及び必要性	市民が芸術文化に触れる機会等を提供することにより、本市の文化的基盤を充実させるとともに、文化芸術創造の活性化と文化活動の支援や育成により、“郷土愛あふれる藤沢”の実現を図る。						
対象	1. 個人	市民				435,121 人	
根拠法令等	その他(要綱等) 文化芸術基本法, 藤沢市芸術文化振興事業補助金交付要綱						
事業実施手法(該当するもの全てにチェック)	<input type="checkbox"/> 直接実施						
	<input type="checkbox"/> 委託・指定管理 (:)						
	<input type="checkbox"/> 補助金・負担金 (補助金 : 公益財団法人藤沢市みらい創造財団)						
	<input type="checkbox"/> その他 ()						
藤沢市市政運営の総合指針2020				その他の計画との関連			
重点施策名		指針体系コード					
オリンピック・パラリンピックを契機とした都市の魅力(レガシー)の創出		2-2-51		藤沢市文化芸術振興計画 藤沢市オリンピック・パラリンピック文化プログラム			
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
市内に文化的な魅力があると感じますか		2.78 点	2.74 点	2.77 点	2.88 点		
		点	点	点	点		

令和2年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	負担金補助及び交付金	98,710 千円	公益財団法人藤沢市みらい創造財団への補助
	98,710 千円		
【参考】 令和3年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	負担金補助及び交付金	128,366 千円	公益財団法人藤沢市みらい創造財団への補助
	128,366 千円		

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
常時勤務職員※	0.30	0.30	0.30	0.30 人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00	0.00	0.00	0.00 人工
非常勤職員	0.00	0.00	0.00	
合計	0.30 人工	0.30 人工	0.30 人工	0.30 人工
会計年度任用職員(配置数)				0.00 人

※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く

3. 事業実施内容・成果

令和2年度 事業実施 内容	公益財団法人藤沢市みらい創造財団芸術文化事業部門への助成により、以下の事業が実施された。 ・音楽事業:4事業 9公演 入場者数 1,985人 (中止4事業) ・演劇事業:0事業 (中止5事業) ・学校訪問事業:11回開催 1,851人 ・第70回藤沢市展(中止) ・各種市民文化事業:ロビーコンサート、藤沢市芸術文化展等						
	指標名	単位	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	備考
成果目標	公演入場者数, 事業参加者数	人	32,000	32,500	33,000	33,500	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	備考
	音楽事業	公演	16	16	17	9	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの事業が中止となった。
	演劇事業	公演	11	7	3	0	
	学校訪問事業	回	24	32	29	11	
公演入場者数, 事業参加者数	人	22,484	23,747	19,706	3,836	事業中止の影響により、人数が大幅に減少している。	
成果実績	数値で表せない効果						

4. コスト分析

年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
コスト	行政費用(フルコスト) A	142,529	123,122	110,118	101,229	
	(1)現金を伴う支出 (千円)	142,604	123,154	110,116	101,230	
	事業費(支出済額)	139,704	120,263	107,201	98,710	
	償還金利息	0	0	0	0	
	人件費合計(①+②+③)	2,900	2,891	2,915	2,520	
	①常時勤務職員等の給与等	2,766	2,750	2,742	2,358	
	②会計年度任用職員の報酬等	0	0	0	0	
	③退職金相当額	134	141	173	162	
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-75	-32	2	-1	
	①減価償却費	0	0	0	0	
	②退職給与引当金繰入額	-75	-32	2	-1	
	③不納欠損額	0	0	0	0	
	④その他()	0	0	0	0	
	行政収益(事業収入) B	0	0	0	0	
(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	0	0		
①分担金及び負担金 c	0	0	0	0		
②使用料及び手数料 d	0	0	0	0		
③国庫支出金	0	0	0	0		
④県支出金	0	0	0	0		
⑤その他()	0	0	0	0		
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0		
収入未済増減額	0	0	0	0		
収支差額(純費用)A-B E	142,529	123,122	110,118	101,229		
分析指標	項目	公演入場者数, 事業参加者数 F	22,484	23,747	19,706	3,836
	1単位あたりの総費用 A/F (円)		6,339.13	5,184.74	5,588.04	26,389.21
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)		333.40	286.79	254.28	232.65
	受益者負担率 (C+D)/A (%)		0.00	0.00	0.00	0.00

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和元年度末時点の課題	青少年事業、スポーツ事業、芸術文化事業といった3事業部門を持つ財団の特徴が「強み」として十分には生かされていない現状がある。
(2) (1)解決のための令和2年度の取組	3事業部門を連携させた、みらい子どもフェスタを実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。
(3) 令和2年度末時点の課題	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた事業取組について検討していく必要がある。
(4) (3)解決のための今後の取組	新しい生活様式にあった非対面でのチケット販売や、動画配信を活用した公演等の充実を図る。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠		
	○	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)		
	○	ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間		
	○	ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和2年度支出済額	
		○	ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	
		○	ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合			
○		ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上	

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
5. 補助金・負担金	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	文化芸術の振興には、地域にかかわらず、文化芸術を鑑賞、参加、創造できる環境づくりが求められている。芸術創造活動の振興のため、重点的な支援と幅広く多様な支援の均衡を図る必要がある。また、コロナ禍で多くの公演等が中止・規模縮小されたことで、文化芸術活動が停滞している。	
	国・県・市を始め、民間企業なども芸術文化を振興するための事業に対し、補助や助成を行っている。	
市民ニーズ	把握方法	公益財団法人藤沢市みらい創造財団が主催する各事業においてアンケート調査を実施。
	把握内容	事業の内容については大半が肯定的意見であるが、一部事業の見直しや新たな事業の提案など様々な意見も寄せられている。また、コロナ禍での実施のため、WEBアンケートを実施したが、回収率が下がった。
	対応等	多様な市民ニーズに応えるため、幅広いジャンルの事業の提供を行う。鑑賞環境の改善については、市民会館再整備における課題としてとらえ、対応を検討していく。また、アンケートの回収率をあげるための方法を検討していく。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、藤沢市民オペラ本公演「ナブッコ」をはじめとする多くの事業が延期や中止を余儀なくされた。その中で、代替事業である「スペシャルガラ・コンサート」の開催や「ワンコイン・コンサート」の無観客上演配信等を実施することで、芸術文化に触れる機会を提供した。	
	まちづくりテーマ	② 『2020年』に向けてまちの魅力を創出する
今後の方針	事業の方向性	現状維持
	公益財団法人藤沢市みらい創造財団が実施する音楽・演劇等の鑑賞事業や各種文化事業の実施により、市民への文化芸術鑑賞の機会や活動の場が提供されており、もって本市の芸術文化の創造と発展に寄与しているものと考えている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により市民オペラをはじめ多くの事業が中止となったが、今後においても新しい生活様式における事業取組等を検討しながら、継続して助成及び支援を実施していく。	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク影響度Ⅰ	リスク影響度Ⅱ
14	公益財団法人藤沢市みらい創造財団芸術文化事業部門の運営指導及び連絡調整	無	有	1	1

※リスク影響度Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満、レベル2は10%以上30%未満、レベル3は30%以上。

※リスク影響度Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響、レベル2は部内への影響、レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	生涯学習部	氏名	神原 勇人	確認日	2021/8/10
----	-------	----	-------	-----	-----------